

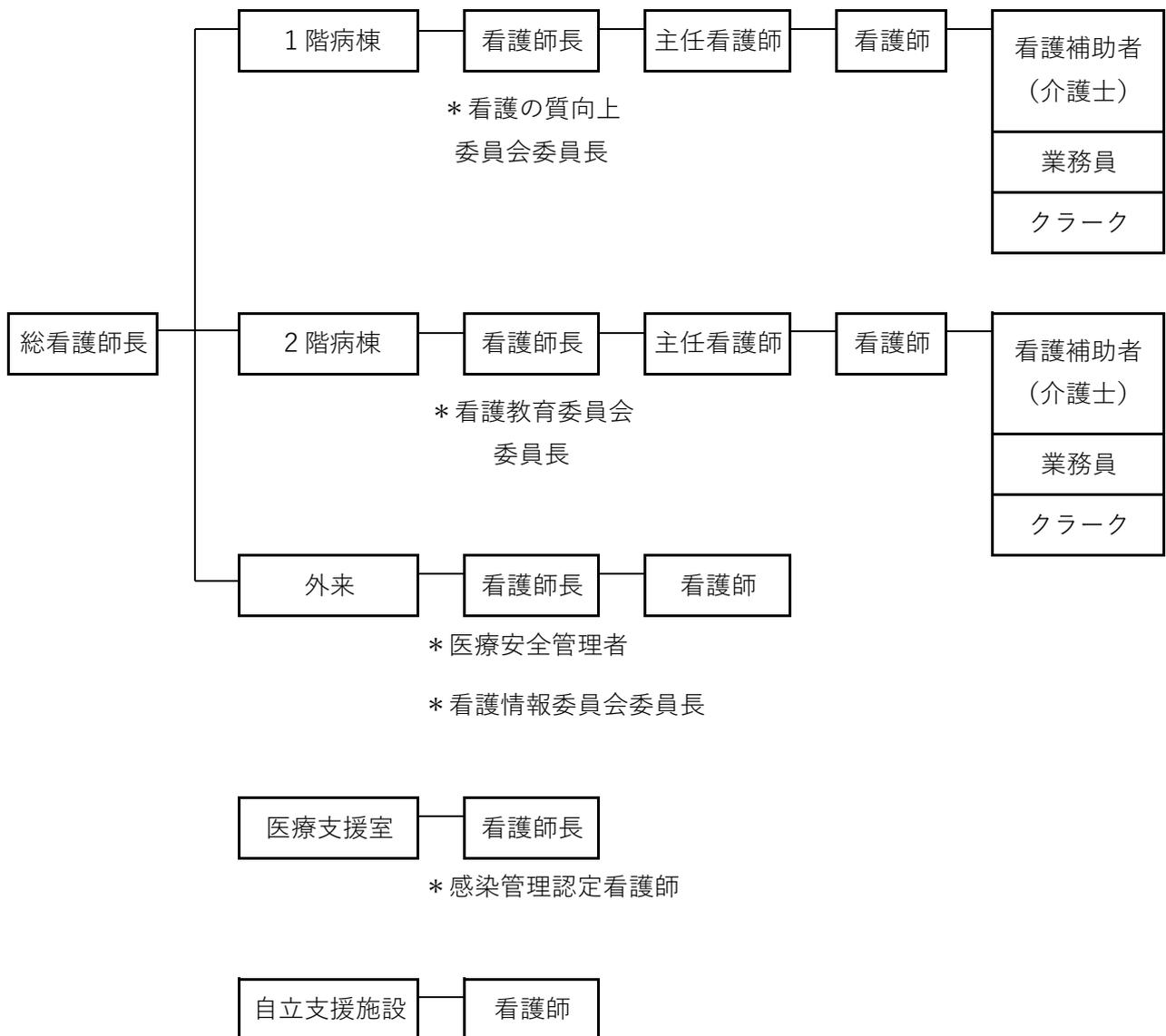
# 広島市立リハビリテーション病院

## 目次

1. 看護科組織図	60
2. 病院理念・看護科理念、基本方針	61
3. 看護科 BSC	62
4. 看護科教育	
1) 看護師・介護士教育	65
2) 新人教育	69
3) 資格（看護協会、学会認定等）	71
4) 院内資格	71
5. 看護活動	
1) 認定看護師活動	72
2) 学会・誌上発表	73
3) 社会貢献	73
4) 講師	74
6. 隣地実習受入校	75

# 1. 広島市立リハビリテーション病院看護科組織図

2023/4/1



## 2. 理念

### 病院理念

私たちは、利用者の皆様が住み慣れた地域でいきいきと心豊かな生活ができるよう良質で信頼される総合的なリハビリテーションサービスを真心をこめて提供します。

### 看護科理念

私たちは、利用者の皆さんの立場を尊重し、「その人らしい生活」の再構築を支援するため、質の高いリハビリテーション看護を提供します。

### 看護科の基本方針

- 1) 利用者の皆さんの自己決定を尊重し、誠意をもった細やかな対応をします。
- 2) 事故防止に努め、安全な看護を提供します。
- 3) チーム医療の一翼を担い、専門性の高い科学的根拠に基づいた看護を提供します。
- 4) 急性期および地域医療との連携を強め、満足していただける看護を実践します。

### 3. 令和5年度看護科のバランススコアカード

目標：リハビリテーション専門病院として、確かな知識・技術のもと、患者中心のチーム医療の提供ができるように、成長し続ける組織を目指す

	経営シナリオ	各視点の戦略目標 重要成功要因：GSF	重要業績評価指標 (KPI)	KPI オーナー	R4 年度の実績
顧客の視点		利用者との信頼関係の構築 地域との信頼関係構築 学生実習受け入れ (看護学生・中学生) 市民病院との連携により信頼関係の構築	患者満足度調査 接遇研修参加率 新規入院患者数 出前講座件数 学生受け入れ人数	看護師長 総看護師長	患者満足度 93.2% 接遇研修参加率 100% 新規入院患者数 454 人 学生受け入れ人数延べ 245 人
		安心安全な看護の提供	IA 報告件数研修会参加率 院内感染発生件数 研修会参加率 褥瘡発生率・持ち出し件数 医療関連機器圧迫創傷有病率 スキンテア発生件数 急性増悪転院患者数 膀胱留置カテーテル離脱率	医療安全管理者 感染対策委員 褥瘡対策委員 看護師長 総看護師長	IA 報告件数レベル0 628 件 レベル3b 以上 16 件 リスク研修会参加率 100% クラスタ発生 2 件 院内感染発生数 4.72% 感染研修参加率 100% 褥瘡推定発生率 0.3% 持ち出し件数 10 人 医療関連機器圧迫創傷有病率 1.6% スキンテア発生有病率 0.8% 急性増悪 48 件 10.6% 膀胱留置カテーテル離脱率 29%
財務の視点		病床利用率の向上 算定もれの防止	病床利用率 認知症ケア加算1算定件数 リハ総算定料算定率 摂食機能療法件数 摂食嚥下支援加算件数 排尿自立支援加算	看護師長 総看護師長	病床利用率 91.2% 認知症ケア加算1算定件数 9,917 件 リハ総算定料算定率 100% 摂食嚥下支援加算件数 571 件 排尿自立支援加算 712 件
		看護外来の継続	フットケア外来患者数	皮膚排泄認定看護師	フットケア外来新規患者 3 人 フットケア外来患者 55 人
		外来収益の向上	外来患者数 専門外来(摂食嚥下障害評価 外来等・難病外来)患者数 フットケア外来患者数	外来看護師長 総看護師長 皮膚排泄ケア認定看護師	外来患者数 33.2 人/日 延べ 9,770 人 専門外来(高次脳機能評価・運転評価・ 摂食機能障害評価・難病外来・ボトックス注射等) 30 件
		医療保険による退院後訪問指導 介護保険による訪問看護	退院後訪問指導件数 訪問看護件数	看護師長	退院後訪問指導件数 7 件 訪問看護件数 0 件
内部(業務)プロセスの視点		NST 介入による低栄養の改善 個別訓練実施による訓練強化 病棟訓練実施による訓練量の確保 脊損バスの導入	NST 介入患者数 個別訓練実施数 病棟訓練実施数 脊損バス実施患者数	NST 委員 介護士 看護師長 総看護師長 回復期リハ看護師	NST プレ介入患者 15 名 摂食嚥下支援加算延べ 571 件 病棟訓練実施数 延 15,025 人 脊損バス実施患者数 0 人
		在宅復帰のための支援を強化 入院患者の ADL 向上のための グループ活動を持続し、 FIM の改善と ADL 自立への サポートを実践 認定看護師を活用し看護の質向上を図る	重症率 在宅復帰率 実績指数	認定看護師 リハビリ看護師 看護師長 総看護師長	重症率 46.8 在宅復帰率 90.5% 実績指数 51.5%
学習と成長の視点		看護管理に関する勉強会	看護管理研修会の開催 管理ラダーの構築	総看護師長	マネジメントラダー取得者 0 管理者研修 ファーストレベル 2 名 セカンドレベル 1 名 認定看護管理者取得 1 名
		ナーシングスキル研修参加 介護士ラダーの構築	研修参加件数 介護士ラダーの構築 研究発表	教育委員会 看護師長 総看護師長	研修参加件数 27.9 回/年/人 看護師ラダー I 取得 91% II 取得 73.0% III 取得 38% IV 取得 10% 管理ラダー・介護士ラダーの構築 研究発表 3 件
		職員満足度の向上	職員満足度評価調査 夜勤アンケート調査 年休取得日数 離職率 時間外の削減 メンタルヘルスチェック回数	心理療法士 看護師長 総看護師長	職員満足度評価調査平均 3.9 夜勤アンケート調査 実施 年休取得日数 平均 8.99 日/年 離職率 10.0% (7 人) 時間外 352 時間/年 メンタルヘルスチェック回数 2 回

R5年度の目標値	アクションプラン 実施項目	年度末評価 実施項目
<p>患者満足度 96.0% 接遇研修参加率 100% 新規入院患者数 460人 学生受け入れ人数 延べ 700人</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>患者満足度調査の実施</li> <li>接遇研修を看護科全体で実施するとともに各部署でも1回以上研修をする</li> <li>新規入院患者数をモニターする</li> <li>出前講座を行っていることを広報する</li> <li>学生の実習を受け入れる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>患者満足度調査を10月と2月に実施した。10月の入院患者のアンケート結果は、良いやや良いが90.1%、2月は92.7%と昨年の平均67.6%と比較してもかなり改善することができた。新型コロナウイルス感染拡大時には面会禁止を実施したが、終息時には面会禁止を緩和しながら状況に応じた対応を速やかに行った。</li> <li>接遇研修を看護科全体で実施した。ナースングスキルでの学習で、参加率は100%であった。看護の質委員会を中心に身代しなみチェックや接遇標語を月毎に提示しながら、職員への意識付けに取り組んだ。</li> <li>新規入院患者数は494人で昨年より40人多かった。機構内からの転院が50%と昨年と同様であった。機構内病院と県立広島病院、広島赤十字・原爆病院、大学病院で28%を占めている。脳血管疾患が54.1%、整形疾患が34.1%、神経疾患が7.3%であった。昨年より脳血管疾患の受け入れが多かったことで入院単価の増が見込まれた。</li> <li>市政出前講座は、脳卒中のリハビリテーションについて3件実施した。</li> <li>学生実習受け入れは、延べ719人（市立看護専門学校316人、安田女子大学332人、安佐准看護学院36名、広島大学35人）の実習受け入れを行った。</li> </ul>
<p>IA報告件数レベル0 700件 レベル3b以上 8件 リスク研修会参加率 100% クラスター発生 0 院内感染発生数 4.7% 感染研修参加率 100% 褥瘡推定発生率 0.5% 持ち出し件数 5人 医療関連機器圧迫創傷有病率 2.0% スキニア発生有病率 1.0% 急性増悪10% 膀胱留置カテーテル離脱率 25% 1</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>リスクの研修会に積極的に参加する</li> <li>IA情報を職員間で共有するため、IAカンファレンスを実施する</li> <li>感染の研修会に積極的に参加する</li> <li>手洗いを遵守する。PPEを適正に使用する</li> <li>アウトブレイクを防止する</li> <li>医療関連機器圧迫創傷（MDRUP）の早期発見早期治療を行う</li> <li>急性増悪転院患者数をモニターする</li> <li>膀胱留置カテーテル離脱率をモニターする</li> <li>気管切開チューブ離脱率をモニターする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>リスク研修会を2回/年開催。参加率は2回とも100%であった。</li> <li>IA総数1787件、インシデントは1727件、アクシデント8件、暴言暴力52件であった。そのうちレベル0は641件、レベル1は713件、レベル2は248件、レベル3aは1250件であった。レベル3bの8件については、転倒・転落が4件、情報漏洩1件、誤薬3件であった。アクシデント事例については、RCA分析で要因分析を行いリカバリスで対策を話し合った。その他のレポートについても対策について全例カンファレンスを行い検討した。環境要因による事象については、リスク小委員会によるラウンド実施し、現場確認と同期に対策立案、その後の対策評価を行った。</li> <li>感染研修：職員の100%が参加した。ナースングスキルでの学習と実技研修は手洗い・PPEの実践を行った。院内感染発生は1.31%（R4年度 2.43%）、感染持ち込み39件であった。</li> <li>褥瘡有病率は0.4%（R4年度 3.4%）、褥瘡発生率は2.9%（R4年度 3.4%）に比較して下がっている。医療関連機器圧迫創傷有病率1.8%（R4年度 1.6%）、スキニアの発生有病率1.6%（R4年度 0.8%）であった。発見時には早期治療を行っている。</li> <li>急性増悪転院患者数は45名9.9%（R4年度は48名10.6%）であり、重症患者を早期受け入れることで状態が急変し元の急性期病棟へ転院となる患者が増えた影響と考える。</li> <li>膀胱留置カテーテル離脱率は29.2%で（R4年度 29%）であった。</li> <li>膀胱自立支援加算介入件数592件でR4年712件に比べ減少した。クラスター発生時にカンファレンスを中止した影響と考える。</li> <li>気管切開チューブ離脱率は45.8%であった。1名は意識障害のある患者で、気管切開チューブを挿入のまま在宅退院となったため、家族指導を行ない訪問看護へ繋いだ。</li> </ul>
<p>病床利用率 96.5% 認知症ケア加算1算定件数 9,900件 リハ総算定料算定率 100% 摂食嚥下支援加算件数 580件 排尿自立支援加算 750件</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>空床期間を最小限にするため退院情報を早めに把握する</li> <li>主治医・医療連携担当との情報交換を頻回に行う</li> <li>各チームの加算算定状況を把握する</li> <li>医事課と情報交換を行い、算定漏れを把握する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>病床利用率91.2%。8月と1月に院内でコロナ感染発生したことで入院受け入れを中止した影響もあり、目標には届かなかった。平均在院日数は72.3と昨年より微増しており、重症患者の受け入れが増えた影響と考える。</li> <li>認知症ケア加算はクラスターの影響で算定できない時もあったが、10,576件と昨年の件数を上回ることができ、収益も増額した。</li> <li>リハ総算定率については、運用方法を変更したことで100%取得できた。</li> <li>摂食嚥下支援加算は571件、排尿自立支援加算は712件と、昨年と比較し微増しており、収益も増額することができた。</li> </ul>
<p>フットケア外来新規患者 5人 フットケア外来患者 70人</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>糖尿病罹患患者等新規フットケア患者を増やすため、退院患者に広報する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>フットケア患者56名 新規は2名。そのうち糖尿病罹患患者は15名（R4年20人）であった。新規患者は3名であり、目標値には届かなかった。さらに患者を増やすため、HP上で広報を行うことやコア看護師育成に力を入れていきたい</li> </ul>
<p>外来患者数 25人 / 日 専門外来（高次脳機能評価・運動評価・摂食機能障害評価・難病外来・ボトックス注射等）90件</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>病棟の廊下などに外来リハを行っているポスターを貼る</li> <li>誤嚥を観察し、必要であれば地域担当者と連絡を行い、患者の安全に配慮する</li> <li>皮膚科医と連携し、フットケアの必要な患者をピックアップする。外来や病棟にフットケア外来を行っている広報をする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>MRI件数は657件（R4年610件）で昨年よりは増加している。</li> <li>外来患者延べ人数は8,551人であった。R4年の8,077人（33.2人/日）より外来患者は増加している。</li> <li>機能神経外来やボトックス注射などの影響もあり外来収益は、90126000円、（R4年度 85536000円）昨年より増収となっている。</li> <li>高次脳機能障害外来3,603人、神経難病リハ外来3人、ボトックス38人、機能神経外科外来222人、摂食嚥下評価1人であった。</li> <li>フットケア外来は56名で、新規は2名であった。</li> </ul>
<p>退院後訪問指導件数 15件 訪問看護件数 2件</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>退院後新しい環境に適応するための調整を行った後に、在宅スタッフに引き継ぐ。機能低下を最小限にできるように自宅でできる訓練も取り入れる。医療保険での退院後訪問指導には要件があるが、適応のある患者には必ず訪問できるようにする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>退院後訪問指導は26件、17人に実施した。昨年の4件より増えているが目標値には届かなかった。コロナ感染対策目的に、訪問関連は中止した影響が大きかった。</li> <li>訪問看護については、医療保険を適応しようとする介護保険なし、もしくは特定の疾患で通院困難患者に限ること。介護保険での訪問になること、ケアマネの作成するケアプランに沿って介入になる。当院退院の患者さんは介護保険取得者が多くいことや、自宅退院された患者さんで認定看護師の加算になる患者さんが少ない為、現実的には介入が難しい。</li> </ul>
<p>NSTブレ介入患者 5名 摂食嚥下支援加算 延べ600件 病棟訓練実施数 延15,500人 背損バス実施患者数 5人</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>NST介入者を病棟で把握し、協働する</li> <li>病棟での訓練量を確保し、回復を促進させる</li> <li>背損バスを導入する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>NST新規ブレ介入6件（R4 2件）と増加した。摂食嚥下認定看護師とNST委員会を中心に病棟ラウンドを行い、リハスタッフ、病棟スタッフと協働して摂食嚥下支援を行った。</li> <li>摂食嚥下支援加算の件数は642件（R4年571件）であった。</li> <li>ICFの研修会を行ったため、日常のカンファレンスの中でも参加の視点の目標設定ができています。</li> <li>病棟訓練は延べ13,659人と目標値より低かった。要因としてはクラスター発生により、病棟訓練を中止した期間があった影響と考える。</li> <li>背損バスは昨年度はほとんどバスをしようできていなかったが、R5年度は、頸髄損傷患者15名にバスを使用することができた。</li> </ul>
<p>重症率 43.0 在宅復帰率 85.0% 実績指数 45%</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護指導を行い、自宅退院を可能な限り選択できるように支援する</li> <li>個別強化訓練を挙げることで、低い値のADLにアプローチする</li> <li>認定看護師の活用促進のため、活動日の確保を行う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>重症率は48.1%、在宅復帰率は86.9%、実績指数46.8%であり、全てにおいて回復期リハビリ病棟Iの施設基準を高い数値で上回ることができた。</li> <li>コロナ感染拡大時には面会禁止を実施し、感染終息時には面会制限を緩和するなど、感染状況をみながら患者サービス向上に向け取り組んだ。</li> <li>個別訓練実施数延べ13,659人。（1階5884人 2階7775人）。今年度より病棟レクリエーションを再開し延べ104人実施した。</li> <li>認知症ケア加算介入は対象者171人で延べ10,579件、摂食嚥下支援加算は対象者93人で延べ942件、排尿ケア支援加算は対象者94人で延べ592件であった。各専門領域の認定看護師を中心とした各種チームを構成し、多職者がそれぞれの専門性を発揮して介入している。</li> </ul>
<p>マネジメントリーダー取得者 I 10% II 10% 管理者研修ファーストレベル 2名 セカンドレベル 1名 サードレベル 1名</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>看護師長を中心に管理リーダーⅢから構築する。管理リーダーの評価基準・手順を作成し年度末までに主任・看護師長が評価を行うことができるように構築する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>マネジメントリーダーの新規申請はなく、令和6年度に新規申請に向け取り組む。</li> <li>認定看護管理者ファーストレベル受講2名、セカンドレベル1名、サードレベル1名の研修受講があった。</li> <li>研究発表3件、雑誌投稿1件</li> </ul>
<p>研修参加件数 25回/年/人 看護師リーダーI取得 92% II取得 75% III取得 40% IV10% 介護士リーダーI 20% II10%取得 研究発表 3件</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>集合研修が減っているため、ナースングスキルやオンデマンド研修を使用し、研修機会を設ける。研修参加が少なかった。職員もナースングスキル研修を必須研修にすることで、参加率がある</li> <li>教育委員会を中心に介護士リーダーの構築を行う</li> <li>研究発表を促す</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>看護師研修参加件数はほぼ目標値の27.7回（R4年27.9回）であった。必須研修はオンライン研修を活用し、受講率を上げていくように取り組んだ。</li> <li>キャリアリーダーI 4名、II 5名、III 8名、IV 1名の新規認定を行った。（I81% II71% III43% IV9%）</li> <li>介護士リーダーを構築し、今年度はリーダーI 18名の認定をした。介護士リーダーIについては介護士100%取得ができた。</li> <li>研究発表は3件、雑誌投稿1件。</li> <li>回復期リハビリテーション認定看護師資格1名取得</li> </ul>

<p>職員満足度評価調査平均 3.9 夜勤アンケート調査実施 年休取得日数 平均 10 日/年 離職率 10% 時間外 200 時間/年 メンタルヘルスチェック回数 2 回</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職務満足度調査の低い項目について、対策を検討する</li> <li>・WLB の視点から、時間外の多い職員に対して、仕事の振り分けを行う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員満足度評価調査は、看護師は看護協会のチャレンジを実施した。ストレスポイントが下がり、ポジティブポイントの上昇があった。メンタルが理由の退職はなかった。</li> <li>・年休取得は、平均 11.20 日（R4 年は 8.99 日）であった。目標値 10 日を達成できており、引き続き年休取得増に向け、業務改善を視野に入れ取り組む。</li> <li>・離職は 4 名、離職率 4.49%であった。新人看護師の離職はなかった。師長、プリセプター、保健師などが協働してメンタルサポートに力をいれている結果と考える。</li> <li>・時間外の削減について、R5 年度は看護科合計 2,961 時間、平均 2.9 時間（R4 年度 4,227 時間、平均 4.3 時間）と比較しても激減できている。看護の質向上委員のメンバーを中心に業務改善や看護情報委員を中心に記録のテンプレート化などの取り組みの結果であると考え。</li> <li>・メンタルヘルスチェックを 8 月と 11 月実施した。高ストレス者が 8 月 23 名、1 月 29 名と過去データのなかでも一番多かった。年代別でも今までは 30 代の高ストレス者が多かったが、今年度は 20 代が 7 名と多かった。産業医や保健師面談の情報提供を行いながら、メンタルサポートに引き続き力を入れていく</li> </ul>
--	---	--

4. 看護科教育  
1) 看護師・介護士教育

2023年度 看護科研修一覧 研修年間計画

集合研修 看護科職員全レベル対象

研修名	目的	研修方法	講師	実施日
看護師の特定行為研修制度について 回復期での血糖コントロールについて考えよう	看護師の特定行為研修制度について理解する 血糖コントロールに関する知識を身につける	講義	山根看護師長	4/19
BLS	救急蘇生の目的、一次救命の処置方法を理解し、緊急対応に活かすことができる	講義 演習	小倉主任看護師	5/17
皮膚・排泄ケア	必須研修 排泄ケアについて理解を深め、実践できる	講義	倉本主任看護師	6/21
摂食嚥下障害看護	摂食嚥下障害看護について理解を深め、実践に活かす事ができる	講義	川端看護師長	7/19
認知症看護 必須研修	認知症看護を続けるためのメンタルヘルスの保ち方	講義 (WEB)	伊東主任看護師	9/20
高次脳機能障害患者の看護	高次脳機能障害患者の看護	講義	山根看護師長	10/18
回復期リハビリテーション看護/ICFの考え方	回復期リハビリテーション看護 ICFについて	講義 (WEB)	日高主任看護師	11/15
接遇、患者/職員満足度を高めるには	社会人、専門職として必要な接遇ができる 患者/職員満足度を高めるための何ができるか考え実行できる	講義 GW	看護の質向上委員	12/20
看護情報	患者が見える看護記録をする事ができる	講義	看護情報委員	1/17
排尿自立支援	回復期から維持期へ退院支援を行った事例について発表し、ケア方法を共有する	発表	1F: 2F:	2/15
多職種・地域連携、継続看護	事例発表	発表	1F: 2F:	2/21
ポータルフォロ発表会	1年間の看護活動、目標管理を共有する	発表	看護: 介護:	3/31

部署別研修

研修名	目的	研修方法	講師	実施日
部署別感染対策	感染対策について学び実践に活用する事ができる	講義 演習	感染対策委員会	5月1月
部署別医療安全	医療安全について学び実践に活用する事ができる	講義 (WEB)	リスクマネジメント委員会	9月2月
部署別認知症ケア	認知症ケア 認知症の方が望まれていること 講師：吉村朋範先生	講義	教育研修委員会	8/9
FIM研修	FIM について理解し、適切な評価をすることができる	講義 (WEB)	FIM ワーキング	9月
職員接遇研修	医療者に求められる基礎的マナーと危機的状況における接遇について	講義 (WEB)	ナーシングスキル	10～11月
職員倫理研修	市立病院機構職員としての自覚をもって	講義 (WEB)	堂本事務長	12月

卒後・入職後2年目看護職員研修（ラダーⅡ対象必須研修）

研修名	内容	研修方法	講師・担当者	実施日
看護過程・看護診断・ケーススタディ	事例検討：脳梗塞	講義 演習	情報委員	5/26
【ナーシングスキル】専門領域スキルアップ フィジカルアセスメント	看護師向け身体診察 初級編 中級編（事前学習） 急変対応 事例検討：アナフィラキシーショック・ICF	動画講義 GW	教育委員会	7/21
社会人基礎力	社会人基礎力を強化するための演習 必須文献：社会人基礎力を鍛える 新人研修ワークブック	講義 演習	総看護師長 教育委員	10/20
リーダー業務 オリエンテーション	ケーススタディ	講義 演習	教育委員会	12/15
【日看協オゾンデンマンド研修】 ラダーⅡレベル到達のための研修	JNAラダーⅡ到達のための研修 「地域包括ケアシステムを形成する施設・職種・制度」 「ケアの受け手や周囲の人々の意思決定プロセスとその理解」 ・リフレクシオン研修	動画講義・GW 演習	教育委員会	2/2

キャリアアラダーⅢ対象年間教育プログラム（看護師経験3年程度～）

研修名	内容	研修方法	講師・担当者	実施日
【日看協オゾンデンマンド研修】 JNAラダーⅢ到達のための研修 災害看護シミュレーション・コミュニケーション リハビリテーション看護実践場面における倫理的行動について	「迅速なフィジカルアセスメントで行う急変予測と対応」 「生理的変化と症状」 「予測することのできること」 「迅速評価と対応」「一時評価と対応」	動画講義 GW	教育委員会	8/18
回復期リハビリテーション看護 【日看協オゾンデンマンド研修】 JNAラダーⅢ到達のための研修	レポート提出 回復期リハビリテーション看護 「協働におけるコンサルテーションと多職種カンファレンス」 「自施設周辺の地域包括ケアシステムの理解」	講義 動画講義	回復期リハビリテーション看護認定看護師 教育委員会	11/10
【院外】 広島市立病院機構主催 ラダーⅡ取得者研修	「キャリアアデグザインとキャリア開発」 職場の変化に対応できる知識とスキルを学び、主体的に行動できる人材を育成する	講義 GW 研修後課題	広島市立病院機構 看護教育担当者	12/8 12/15
【院外】 広島県看護協会 実地指導者研修	実地指導者が新人看護職員の職場への適応状況を把握し、基本的な看護技術の指導 および精神的支援を行うために必要な能力を修得する 実地指導者が、所属部署の新人看護職員研修計画に沿って教育担当者、部署管理者 とともに部署における新人看護職員の個別の研修プログラムを立案、実施、評価す るために必要な能力を修得する	講義 演習 GW	広島県看護協会講師	9月 ～11月
【日看協オゾンデンマンド研修】 看護管理研修 JNAラダーⅢ到達のための研修 【ナーシングスキル】専門領域スキルアップ	看護管理研修（受講免除制度あり） 「急変の予測と救命救急場面の対応」「看取りにおける尊厳の尊重と苦痛の緩和」 *自己課題：研修日までに視聴しておくこと 「家族看護概論」第1～3回 「家族看護応用編」第1～2回	講義 動画講義	杉岡看護師長 教育委員	1/26
リフレクシオン研修	「当院におけるラダーⅢレベルの看護実践能力を持つ看護師の役割」	演習 GW	教育委員会 主任看護師	3/1

キャリア開発ラダーⅣ対象年間教育プログラム（看護師経験5年以上）

研修名	内容	研修方法	講師・担当者	実施日
【院外】 広島県看護協会 ラダーⅢ～Ⅳ対象研修	以下の研修または同等の研修を修了する ・看護研究における倫理と研究の進め方 ・災害支援ナース育成研修 ・広島県保健師助産師実習指導者講習会 ・医療安全管理（実践編）*感染管理（基礎編） ・看護におけるリフレクシオン・ケアマネジメント ・看護職員認知症対応力向上研修 *「認知症ケア加算」に対応した研修 ・ACP（アドバンスケアプランニング）	講義 動画講義 ラダーⅣ認定審査申請をするまでに50%の研修を受講すること	教育委員会 教育委員会	個人調整 10/6 個人調整 個人調整
【日看協】 JNAラダーⅣ到達のための研修	「ケアの受け手の自己決定を支える他職種の協働・連携」視聴期間4/15～2/20 【キャリア開発と教育への取り組み～すべての看護職員のために～】 【演習】ブレゼン「自分の描くキャリアデザイン」 【演習】デイトスカッション：人材育成について 業務改善について	動画講義	教育委員会	個人調整
キャリア開発ラダー審査申請	「レポート作成」	演習	教育委員会	個人調整
【ナースングススキル】	「災害時の医療と看護」	動画講義	教育委員会	個人調整
看護研究	看護現場における研究課題を抽出し、主研究者とともに看護研究を実施 *共同研究者としての研究実施		教育委員会	個人調整

キャリア開発ラダーⅤ対象年間教育プログラム（看護師経験8年以上）

研修名	内容	研修方法	講師・担当者	実施日
【院外】 広島県看護協会 ラダーⅣ～Ⅴ対象研修	以下の研修または同等の研修を修了する ・看護研究における倫理と研究の進め方 ・災害支援ナース育成研修 ・広島県保健師助産師実習指導者講習会 ・研修責任者研修 ・看護におけるリフレクシオン・ケアマネジメント ・看護職員認知症対応力向上研修 *「認知症ケア加算」に対応した研修 ・ACP（アドバンスケアプランニング）	講義 動画講義 ラダーⅤ認定審査申請をするまでに80%の研修を受講すること	広島県看護協会講師	個人調整
【日看協】 JNAラダーⅤ到達のための研修	JNAラダーⅤ到達のための研修 「地域での療養生活と看取りを実現するための最適な看護介入とQOLの維持向上」 第1回 キャリアとは何？ 第2回 キャリアの発達段階とその課題 第3回 キャリアの発機を乗り越える 第4回 キャリアをデザインしよう！ 第7回 災害サイクリカル各期における看護管理① 第8回 災害サイクリカル各期における看護管理② 第9回 災害サイクリカル各期における看護管理③	動画講義	教育委員会	12/1
【ナースングススキル】 自分らしくキャリアをデザインしよう 災害時の医療と看護	キャリア開発ラダーⅤ認定審査申請書類の作成	動画講義	教育委員会	12/1
キャリアラダーⅤ認定審査申請書類の作成	キャリアラダーⅤ認定審査申請書類の作成	演習	教育委員会	申請時
研究	臨床現場における研究課題を抽出し、看護研究を実施する *主研究者としての研究実施、発表		教育委員会	申請時

集合研修 介護職員全員対象

研修名	目的	内容	研修方法	講師担当者	実施日
回復期における介護士の役割	回復期リハビリ病院の特性及び介護の基本10項目宣言を学び介護士としての役割を理解する事ができる	当施設での介護士としての役割 割回復期ケア10項目宣言	講義	藤村介護士 (宗近介護士)	4/27
記録の書き方	経時、SOAPで記録を書く事や注意点を学ぶ事ができる。当院の介護福祉士が行っているカルテ入力について理解する事ができる。	記録の書き方	講義 演習	青掛介護士 (丸上介護士)	5/25
介護過程の展開	回復期の介護過程を展開し課題に即した介入する事ができる	介護過程のプロセス	講義 演習	大下介護士 (大野介護士)	6/22
回復期における介護福祉士の役割 ～排泄介助・更衣編～	おむつ離脱のために看護師と協働する力を学ぶ事ができる。朝・夕の更衣の必要性、更衣介助時の注意点を学ぶ事ができる。	排泄介助時の観察ポイントの理解。 自立に向けて更衣を行う必要性、不快な更衣介助を知る。	発表 講義	河崎介護士 (大野介護士)	7/27
急変時の対応	急変時の対応について理解し介護士としての動きを学ぶ事ができる	急変時における対応の仕方	講義 演習	赤木介護士 (岩井介護士)	9/28
リスク管理	介護福祉士が関わるケアに潜むリスクを知る事ができる。技術や知識不足によるアクシデント防止について学ぶ事ができる。	連携、記録、報告、共有の必要性や対応方法	講義 演習	新枝介護士 (守安介護士)	10/26
FIM、日常生活援助について	様々な場面のFIMを理解する事ができる。日常生活の様々な場面での介入方法、自立に向けての関わり方について理解する事ができる。	日常生活の介入方法	講義 演習	森田介護士 (中山介護士)	11/30
ポジショニング	ポジショニングの必要性を学ぶ事ができる。安楽な体位や正しい褥瘡予防のポジショニングを行う事ができる。麻痺側管理ができる。	ポジショニングの技術	講義 演習	丸上介護士 (新枝介護士)	12/21
回復期における介護福祉士の役割 ～家族へのケアと介護指導編～	障害を持った患者のご家族が在宅生活を迎えるに当たって介護福祉士としてできる事を考える事ができる。	介護家族指導	講義 演習	光岡介護士 (宗近介護士)	1/25
ケア上介護福祉士として気を付ける感染対策	患者が安全快適に過ごせる環境を提供するため、介護福祉士としての感染対策について1年間の介護活動を共有する事ができる	ケア場面での気を付ける感染対策	講義 演習	守安介護士 (赤木介護士)	2/22
ポストフォリオの発表(1年目) 介護過程の発表(2年目)	介護過程を理解する事ができ、他職員の介護過程の展開を共有する事ができる	ポストフォリオの発表 介護過程の発表	発表 討議	介護士担当主任	3/28
感染	感染の知識・技術を身につける事ができる	感染について	講義	感染委員 院内必須研修参加	随時
リスクマネジメント	リスクの知識・技術を身につける事ができる 抑制について学ぶ事ができる	リスクマネジメントについて	講義	リスク委員 院内必須研修参加	随時

卒後1年目介護職員研修

研修名	目的	内容	研修方法	講師	実施日
採用時研修	病院の組織を知り、社会人の一員として職務を責任持って遂行できる 介護専門職としての役割を身につける	広島市立リハビリテーション病 院 介護職員としての心構え/ 接遇/倫理/記録/電子カルテ /リハ看護/介護技術/医療安 全/感染管理	体験学習 実習 講義	別紙	随時
2023年度新人教育研修年間プログラム	新規採用介護職員の知識、技術の向上	教育研修年間プログラムパスに 沿って随時研修実施	参加型	看護科職員	随時

2) 新人教育

2023年度 広島市立リハビリテーション病院 看護科新人教育プログラム

開催日	時間	研修テーマ	研修内容	研修目標	講師	対象者	ラダー
4/3 (月)	8:30～ 17:15	辞令交付書類作成 オリエンテーション 組織とシステムの説明	別紙参照、各部署の挨拶と説明	当院における組織と各システムの概要が理解できる	院長 総看護師長	全部門	組織
		看護科職員としての役割 (理念・基本方針・看護科目目標)	病院理念のもと、看護科の目指すものを示す 看護協会入会ほか各種手続き 図書館の利用について	当院看護科における看護目標・方針を理解し、自らの看護活動に活かすことができる 看護協会入会・出勤簿・年休簿・勤務表 タクテーション・チャット・図書館の利用について理解することができる	総看護師長	看護科	ニーズ
4/4 (火)	9:30～ 10:30	看護科教育について	看護科の教育体制について ・教育計画・ナースングラスキル ・ポートフォリオ・キャリアラダー	看護科における教育体制やその支援について理解することができる	川端師長	看護科	ニーズ 教育
		病棟オリエンテーション プリセプター紹介	病棟説明 各部署説明 挨拶	病棟や各部署の機能・構造について理解できる プリセプターとの良好な関係を築くことができる	プリセプター	看護科	組織
	13:00～ 14:15	回復期リハビリテーション 看護/FIM:☆	回復期リハビリテーション看護について FIM について	回復期リハビリテーション看護に必要な知識・技術について学びを深める FIM について学びを深める	日高主任	看護科	ニーズ
		ICF の考え方:☆	ICF の考え方	リハビリテーション看護に必要な ICF の考え方について理解する	日高主任	看護科	ニーズ
	15:15～ 16:15	看護・介護倫理	看護/介護実践の中での倫理的課題について	日々の看護実践の中での倫理的課題について意識付け できる	濱中主任	看護科	意思
		退院支援、訪問看護	退院調整・在宅支援について	退院支援、退院後訪問指導の実際を知る。	杉原主任	看護科	ケア
4/5 (水)	8:30～ 10:00	医療安全	医療安全に関する基本的な考え方、インシデント・アクシデントの報告 セーフマスタターインシデント システム入力方法の説明:☆	医療安全に関する基礎を学び、事故のない看護活動ができる インシデントシステムの入力方法および操作方法について理解する	杉岡師長	全部門	ケア
		感染対策	感染対策に関する基本的な考え方、臨床での感染防止対策の実践について	感染対策についての基本的知識、臨床での感染防止対策の実践について理解する	白井師長	全部門	ケア
	11:00～ 12:00	感染対策実技	実技	感染対策の基礎から実際までを学び、院内感染防止の具 体策が理解できる。	白井師長 梶原主任	全部門	ケア
		臨床モデルを用いた 新人看護師研修「看護の つき」1回目	臨床判断の基礎能力を養う (演習)	看護実践が臨床判断に基づき実施されていることを理解し、次の看護実践につながる有効な気づきをする。	川端師長 濱中主任	看護科	ニーズ ケア
	15:30～ 16:00	職員の健康管理とメンタルサポートについて	当院における職員の健康管理とメンタルサポートについて	当院の健康管理やメンタルサポートについて理解する	比良福 保健師	全部門	組織
		放射線の取り扱い	放射線被曝・MRI の安全対策について	放射線被曝・MRI の安全対策を知る	診療 放射線技師	全部門	協働
16:35～ 16:55	当院で行う検査について	採血やエコー検査などの検査上の注意事項について	当院の主な検査や検査時の注意事項について	臨床検査 技師	全部門	協働	
16:55～ 17:15	薬剤の取り扱い	薬剤科紹介と薬剤管理について	薬剤の安全な取り扱いを知る	薬剤師	全部門	協働	

8:30～ 10:00	看護記録・介護記録電子 カルテへの入力	看護記録の目的・機能・構成要素について 看護診断、看護計画、評価(NOC・NIC) ペーパーベースインタラクションによる事例の介 護過程の展開	看護記録の目的を理解し、記録することができる。 看護計画を正確に立案し、評価していく概念がわかる 記録をカルテ入力できる。	永松看護師	看護師	ケア
10:00～ 11:00	看護必要度/日常生活機 能評価	看護必要度/日常生活機能評価について	看護必要度/日常生活機能評価について理解し、評価で きる	森本主任	全部門	ケア
11:00～ 12:10	情報管理	個人情報保護・情報の取り扱いについて (動画講義) 1. 本人・家族との情報のやり取り 2. 医療従事者間の情報のやり取り 3. 情報倫理	個人情報保護法について、個人情報とは何か、医療従事 者が日々取り扱う情報とはどのようなものかを理解す る	教育委員	全部門	ニーズ
13:10～ 13:45	医薬品安全使用のため の業務手順書について ☆	医薬品安全使用のための業務手順書に ついて(必須研修)	医薬品安全使用のための業務手順書について	薬剤師	看護科	ケア
13:45～ 15:45	脳卒中リハビリテーシ ョン看護:☆	リハビリテーション看護の現状・障害、 専門的役割について	リハビリテーション看護の実践者として、基礎・基本と なる知識を習得する	山根師長	看護科	ケア
15:45～ 17:15	リハ栄養/NST 摂食嚥下障害看護:☆	リハ栄養・NSTについて 摂食嚥下のメカニズムと看護の実際に ついて	リハ栄養・NSTが理解できる 摂食嚥下障害患者ケアの知識と技術を理解し実践する	川端師長	看護科	ケア
8:30～ 9:30	職員倫理	職員倫理について(動画講義) ・病院で働く職員に向けた臨床倫理 1. 臨床倫理総論 2. 職員倫理	臨床倫理の基本的な職員倫理について理解できる	事務室	全部門	意思
9:30～ 10:45	排泄ケア:☆	排泄障害の病態生理 排泄障害患者の ケアの概念	排泄障害患者のケアの知識と技術を理解し、実践する	倉本主任	看護科	ケア
10:45～ 12:00	褥瘡ケア	褥瘡発生のメカニズムと予防・ケアの技 術について	褥瘡の発生から治療までの過程が理解でき、治療法・患 者教育に関する知識を学び実践する	倉本主任	看護科	ケア
13:00～ 15:00	急変時の対応	患者の急変時の対応について	患者の急変時のアセスメントと救急看護を実施する	小倉主任 向井主任	全部門	ニーズ
15:00～ 17:15	認知症ケア:☆	認知症の病態生理 認知症患者のケア	認知症患者のケアに関する知識と技術を理解する	伊東主任	看護科	ケア
4/10 (月)	基礎看護技術 ME 機器について	基礎看護技術について ME 機器の取り扱いについて (研修室)	看護に必要な知識、技術、態度を見につけ、看護業務手 順に沿い、指導を受けながら安全かつ確実に看護技術を 実施することができる *フィジカルアセスメントおよび演習含む 病棟で利用するME 機器について知るができる	プ リ セ プ タ ー	看護師	ケア
4/11 (火)	機構全体研修	広島市立病院機構の理念等 (オンデマンド研修)	当機構の職員としての役割や責任、職員へのサポート体 制について理解出来る	事務室	全部門	組織

☆: 看護師転勤者・中途採用者参加項目 (希望者のみ)

リーダー: ニーズ→ニーズをとらえる力、ケア→ケアする力、協働→協働する力、意思決定を支える力、組織→組織的役割遂行能力、教育→自己教育・  
研究能力

### 3) 資格（看護協会、学会認定等）

資格	人数	備考
認定看護管理者教育課程ファーストレベル修了	18	広島県看護協会
同セカンドレベル修了	8	広島県看護協会
同サードレベル修了	2	広島県看護協会
認定看護師 入籍	5	日本看護協会
認定看護管理者	1	日本看護協会
特定行為研修共通科目修了	1	広島大学病院
回復期リハビリテーション看護師	3	回復期リハ病棟協会
医療安全管理者養成研修修了者	10	広島県看護協会
感染管理研修修了者	10	広島県看護協会
認知症ケア研修	8	広島県看護協会
診療情報管理士	1	四病院団体協議会
医療フットケアスペシャリスト	1	学会認定
災害支援ナース	3	広島県看護協会
実習指導者養成講習会修了者	7	広島県看護協会
社会福祉士	8	広島県
精神保健福祉士	1	広島県
介護支援専門員	8	広島県
介護福祉士	20	広島県
介護福祉士実習指導者講習会修了	7	広島介護福祉士会
介護福祉士ファーストステップ研修修了	3	広島介護福祉士会
看護教員資格者	1	広島県
大学院修士課程修了	2	大学院
大学院修士課程（在学中）	1	大学院
経肛門的洗腸療法講習修了	3	学会認定
排尿自立支援研修修了	3	大阪府看護協会
特定高圧ガス取扱責任者 液体窒素	1	高圧ガス保安協会
福祉住環境コーディネーター2.3級	2	東京商工会議所

### 4) 院内資格

ラダー取得者

キャリアラダー	人数		マネジメントラダー	人数	
レベルⅠ 取得者	57人	81%	レベルⅠ 取得者	4人	4%
レベルⅡ 取得者	50人	71%	レベルⅡ 取得者	4人	4%
レベルⅢ 取得者	30人	43%	レベルⅢ 取得者	0人	0%
レベルⅣ 取得者	6人	9%	レベルⅣ 取得者	0人	0%

院内認定看護師

摂食嚥下障害看護	3人
脳卒中リハビリテーション看護	3人
皮膚排泄	1人
認知症看護	1人

5. 看護活動

1) 認定看護師活動

分野	名前・取得年・職位	実践		指導	相談
摂食嚥下障害看護	川端 直子 2010(平成 22)年 看護師長	実践 723 件 加算対象者 93 名	院内	4 月 新人職員研修講師 7 月 看護科研修 講師	教育 29 件 相談 72 件 摂食嚥下カンファレンス 1 回/週開催 摂食嚥下ケアミーテ ィング 1 回/月開催
			院外	NPO 法人日本リハビリテーショ ン 看護学会 理事 POTT プロジェクト副代表 6.7 月 POTT 理事会・全国大会 9 月 医学書院 WOC Nursing 特集 食べる喜びを伝える 執筆 11 月 POTT 研修会 司会進行 アドバイザー 1 月 IGL 訪問看護ステーション 研修講師	
脳卒中看護	山根 ゆかり 2012(平成 24 年) 2021 (令和 3 年) 特定行為研修終了 看護師長	実践 76 件 摂食嚥下機能回復 体制加算 排尿自立支援加算の 対象者を含む	院内	教育・指導 50 件 4 月 新人職員研修 講師 4 月 看護科研修 講師	相談 33 件 摂食嚥下カンファレンス 1 回/週 開催 排尿ケアカンファレンス 1 回/週 開催
			院外	6 月 12 月 市政出前講座 講師 8 月 広島県自立支援型ケアマネジメント力 向上力研修 講師 8 月 9 月 安佐准看護学院 講師 3 月 第 36 回脳神経看護教育 セミナー ファシリテーター	
皮膚・排泄ケア	倉本 美和 2014(平成 26 年) 主任看護師	実践 762 件 フットケア外来 56 件 排尿自立支援加算 (週 1 回 200 点) 延べ 712 件	院内	教育・指導 97 件 4 月 新人職員研修 講師 6 月 看護科研修 講師 3 月 院内教育研修 講師	相談 95 件 排尿自立支援加算 ケアカンファレンス 1 回/週 開催 フットケア外来 1 回/月 担当
			院外	NPO 法人日本コンチネンス協会 中四国支部 副支部長 6 月 広島国際大学薬学部 講師 6 月 合同研究会演題発表 12 月リハビリナース月刊誌 執筆 1 月看護協会北支部 演題発表	
認知症看護	伊東 有美子 2016(平成 28 年) 主任看護師	実践 565 件 認知症ケア加算 1 加算延べ 10,576 件	院内	教育・指導 98 件 4 月 新人職員研修 講師 9 月 院内職員必須研修 講師	指導 245 件 相談 258 件 認知症ケアカンファレンス 1 回/週開催
			院外	5 月～6 月 広島市立看護専門学校 第一看護 学科 講師 7 月 (福山会場) 9 月 (広島会場) 看護職員対象認知対応能力向上研 修 講師・ファシリテーター 9 月 3 月 広島県看護協会 認知症 対応能力向上研修 新カリプログ ラム検討委員 11 月 たかの橋中央病院 認知症 職員研修講師 10～11 月 広島市立看護専門学校 第二看護学科 講師 2 月 舟入市民病院職員研修講師	
感染管理	白井 亜紀 2022 年 (令和 4 年) 看護師長	実践 387 件 感染対策向上加算 3 サーベイランス ICT ラウンド	院内	4 月 新人職員研修 講師 5 月 院内職員研修 講師 8 月 院内職員必須研修 講師 1 月 院内職員必須研修 講師 手指衛生ラウンド	教育 21 件 相談 73 件
			院外	6 月 広島市民病院 感染管理 認定看護師ラウンド 合同カンファレンス 4 回/年	

回復期リハビリテーション病棟協会認定

回復期リハビリテーション認定	日高 タ子 2013 (平成 25 年) 主任看護師	春損バス 15 件	院内	4 月 新人研修 講師 7 月 ラダ-Ⅱ対象者研修 講師 11 月 ラダ-Ⅲ対象者研修 講師 11 月 看護科研修 講師 9 月 FIM 研修	多職種との協働 FIM ワーキング主催
	梶本 沙希子 2023 (令和 5 年) 看護師	春損バス 15 件	院外	6 月 安佐准看護学院 講師	
	梶本 沙希子 2023 (令和 5 年) 看護師	春損バス 15 件	院内	11 月 看護科研修 講師 9 月 FIM 研修	多職種との協働 FIM ワーキング主催

2) 学会

学会発表

月	氏名	タイトル	主催
R5.10.27	倉本美和	回復期リハビリテーション病棟における排尿ケアチームの介入効果について	リハビリテーション・ケア 合同研究大会 広島 2023
R5.11.12	大野めぐみ 白鞘加恵 桐生 拓	介護職の教育体制への取り組み ～専門性を高める教育体制の構築に向けて～	公益社団法人 日本介護福祉士会 第 30 回 全国大会第 21 回日本介護学会
R6.1.27	倉本美和	回復期リハビリテーション病棟における排尿ケアチームの介入効果について	広島県看護協会 令和 5 年度 広島北支部看護研究発表会

3) 執筆

月	著者	題名	発行所
R5.9 月	川端直子	特集 食べるよろこびを伝える POTT プログラム～ポジショニングで低栄養・誤嚥・褥瘡予防～ 9.食事の自立支援～POTT プログラム 導入と褥瘡予防	医学出版 WOC Nursing 第 109 号 (Vol.11 No.5 2023)
R6.1 月	倉本美和	脳卒中患者さんの排泄ケアについて	リハビリナース 17 巻 1 号 新人ナース応援号 メディカ出版 P32～P37

4) 社会貢献

	社会的活動	名前	役割	主催
1	日本看護協会	奥田加世	代議員	日本看護協会
2	看護研究倫理審査委員	奥田加世	委員	広島県看護協会
3	広島県看護協会北支部	奥田加世	推薦委員	広島県看護協会
4	広島地方部会運営	山根ゆかり	役員	日本脳神経看護学会
5	日本リハビリテーション看護学会 運営	川端直子	理事	日本リハビリテーション 看護学会
6	はつかいち暮らしと看取りの サポーター研修会	川端直子	運営委員	はつかいち暮らしと看取りの サポーター
7	研修計画などプロジェクト運営	川端直子	副代表	POTT プロジェクト
8	企画運営	倉本美和	副支部長	NPO 法人コンチネンス協会 中四国支部
9	看護職員認知症対応向上研修 プログラム検討会	伊東有美子	委員	広島県看護協会
10	災害支援ナース派遣 能登半島地震 (R6/1/21～27)	伊東有美子 永松栄子	災害派遣 看護師	日本看護協会
11	広島県介護福祉士会	白鞘加恵	理事	広島県介護福祉士会

## 5) 講師

	研修名	名前	年月日	主催
1	老年看護学 認知症看護	伊東有美子	R5.5/2,5/9,5/16 5/23,5/30	広島市立看護専門学校 第一看護学科
2	排泄ケア「他施設・事業者の取り組みから私たちにできること」 ファシリテーター	白鞘加恵	R5.5.21	広島県介護福祉士会
3	臨床看護概論Ⅱ (リハビリテーション看護)	日高夕子	R5.6.7	安佐准看護学院
4	市政出前講座 「脳卒中のリハビリテーション」	山根ゆかり	R5.6.8	広島市
5	在宅医療・介護・フィジカルアセスメント	倉本美和	R5.6.15	広島国際大学
6	基礎看護技術 (日常生活援助Ⅳ)	向井康人	R5.7/11,7/18,8/1 10/2,11/6	安佐准看護学院
7	広島県自立支援型ケアマネジメント力向上力研修	山根ゆかり	R5.8.3	広島県
8	成人看護Ⅲ 脳・神経看護	山根ゆかり	R5.8/23,8/30,9/6	安佐准看護学院
9	老年看護学 認知症看護	伊東有美子	R5.10/4,10/11,10/18	広島市立看護専門学校 第二看護学科
10	認知障害のある患者の看護	伊東有美子	R5.11.10	たかの橋中央病院
11	認知症看護 試験	伊東有美子	R5.12.8	広島市立看護専門学校
12	市政出前講座 「脳卒中のリハビリテーション」	山根ゆかり	R5.12.22	広島市
13	摂食嚥下の効果的なアプローチについて	川端直子	R6.1.16	IGL 訪問看護 ステーション
14	認知症患者の理解とケアのヒント	伊東有美子	R6.2.9	舟入市民病院
15	第36回脳神経看護教育セミナー 「臨床現場での日頃の悩みを解決しよう」ファシリテーター	山根ゆかり	R6.3.2	日本脳神経看護研究学会 広島地方部会

6. 臨地実習受け入れ校 (延べ人数)

令和5年臨地実習受入学校一覧		
学校名	分野	人数
広島市立看護専門学校	基礎看護学実習 I	104 人
	統合看護実習	212 人
安田女子大学看護学部	看護の統合と実践	32 人
	高齢者看護学	307 人
安佐准看護学院	2 年生 見学実習	36 人
広島大学	医療科 薬学科	35 人
合計 (延べ人数)		726 人

